

# スマイル タウン

2022  
9・10  
月

第321号

**ひの社会教育センター** は、市民のみなさまの  
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する  
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が  
協定書に基づいて設立しました。  
今月もセンターで生きがいづくりをされる沢山の  
市民の方々の活動をお伝えします。

## おとな講座 『シャンソン &ポピュラー』



譜面にとらわれず、自由にのびのびと

- シリーズ 「SDGsを自分ゴトにしてみた！」◎
- 表紙の講師は…シャンソン&ポピュラー 吉原 恵美 先生
- 2022年度 “まなび” ご案内
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼

# SDGsを自分ゴトにしてみた！

2030年に向けた国際コンセンサス「SDGs」。センターのある日野市もSDGs未来都市に指定され、様々な所で17個の目標ロゴマークを目にするようになってきました。SDGsの目標はどれもシンプルでとても大切そう。しかし、この目標を達成するには自分たちに何ができるのでしょうか。

今年度はひの社会教育センターの職員がそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、「自分ゴト」としてとらえ、その分野の実践家や専門家と対談しながらSDGsの取り扱い方について考えていきます。



## シリーズ 「SDGsを自分ゴトにしてみた」⑨

### 7 「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

今回のテーマはエネルギーについて。  
株式会社ヒナタオエナジー代表取締役社長、  
来村俊郎さんに、職員の井上恵里がお話を伺い  
ました。  
井上：ヒナタオエナジーの会社のことや事業内  
容を教えてください。

来村：ヒナタオエナジーは、エネルギー関連の  
事業を通じて社会課題を解決することを目的  
に2019年に設立された会社です。私たちの会  
社がもつ事業は大きく分けて二つあり、一般の  
お客様に電気とガスのサービスを提供するエ  
ネルギー小売り事業と、「第三者保有型太陽光  
発電事業」という太陽光発電事業です。

井上：SDGsの目標にはどのように向き合い、今  
後の展望はどのようなものですか？

来村：7の目標については、いちエネルギー会  
社としてやらなければいけないことであるし、  
ぜひ取り組みたいと考えています。ただ、大き  
なテーマなので出来ることから進めていきま  
いと思っています。

特に事業の1つである太陽光発電事業は、多  
くの企業が手掛けており、市場としては寡占状  
態です。しかし、多くの企業は設置する対象物  
件を新築の建物に限っており、当社のように既  
築の建物を主軸にサービスを提供している企  
業は少ない状況です。その中でも特殊なパネル  
や工法により、多くの既築の建物に太陽光を設  
置できると提案している点が当社のサービス  
の特徴です。

既築の建物に太陽光の設備を設置すること

が難しいとされる点は、一般的な太陽光の設備  
は非常に重いことに加え、アンカーを打つなど  
屋根や屋上に穴をあける固定方法を選択する  
ことで、屋根や屋上への負荷が大きい点です。  
当社のサービスは痛めつけない方法を選択し  
ますので既設の建物に対する負荷を最小限に  
抑えることができます。

構造物の寿命を100年まで延命するような時  
代です。「建て替え」より「メンテナンスして  
出来るだけ長く維持していく」という考え方に  
変わってきています。社会課題の解決に対し  
て、時代にあった選択肢を提供することは重要  
ですし、それを継続して取り組めるよう事業性  
を維持することに試行錯誤していますが、意義  
は大きいと感じています。

井上：SDGs 目標のひとつである「再生可能エ  
ネルギー」を使う割合を増やすという観点では  
17・8%しか達成できておらず、まだまだ少  
ないと言われていています。この数値が上がって  
いきつかやアイデアはありますか？

来村：国主導で個人や企業が自家発電して余つ  
た電気を売ることが出来る制度(固定価格買取  
制度：FIT)が2012年よりスタートしました。

当時は国の買取価格が高く、太  
陽光を設置すれば電気代が安  
くなる(売電することによって電気代  
を押さえられる)というメリッ  
トがありました。しかし、近年  
では買取価格は当時の3分の  
1程度まで下落しています。し  
かし、制度開始当時のイメージ  
が世間的に強く残っており、お  
客さまから「電気代が安くなる  
ないなら設置する意味がない」  
というご意見をいただくこと  
があります。



↑写真提供 ヒナタオエナジー  
来村俊郎さん(左端)とソーラー部門で働くみなさん

再生エネルギーの利用を今以上に高めるた  
めには、現状を正確にとらえ、当初の「電気代  
が安くなる」というイメージから、「環境性や  
防災性としての価値」への理解と共に「導入し  
やすくする仕組みや考え方」を我々のような  
企業が提案できることが非常に大事であると  
感じています。時代がもう少し進めば、世間の  
価値観も変わり、環境や防災の視点が広く受  
け入れられると思っています。現在はその移  
行期間にあり、移行するスピードが遅いだけ  
で、誰かがそのスピードを速める取り組みを  
行えばいい。誰かがやるのを待つのではなく、  
私たちがやるという意思と行動が必要です。  
また、太陽光を使うことは「エネルギーの自  
産自消」であり、自分たちで「生グリーン電力」  
を発電して消費するという思想です。この取  
り組みは日本だけのものではなく、簡素なシ  
ステムの構築により、世界中で利用できるよ  
うな未来を作っていくことができると思っ  
ています。この発想は7の目標を達成するた  
めには大事なポイントと捉えています。

井上：「生グリーン電力」面白いですね。自分  
のところで作れて使えるというのは、100%消  
費する分を作り出すことが出来るのですか？

来村：現実的には難しいで  
す。例えば、太陽光は夜間  
では発電ができません。風  
力は風がなければ発電で  
きません。安定的に生グ  
リーン電力を生むことは非  
常に難しいというのが実  
態です。ただし、蓄電池と  
セットにするなどできる  
限り100%に近づけるご提  
案をしています。

井上：SDGs 7の目標から少し離れますが、防災性の面で、昨今の豪雨や地震を経験し自分達で備えるという自助力が問われている局面があると思います。ヒナタオエナジーさんで、防災対策として考えられることはありますか？

来村：太陽光を設置することにより、強烈に何かがよくなるわけではありません。あくまで太陽光発電は手段であり、防災においては個々の災害時のアクションや地域の力が大きくなると思っています。

災害時に最低限必要なものの1つとして非常用発電があり、それを燃料なしに使える太陽光発電は魅力的だと思います。電源があればそこに防災拠点が作れ、その防災拠点を軸に災害時対応が起これます。これらの活動は太陽光発電があればできるものではなく、それをうまく回すための自助公助がうまくかみ合うことで機能すると思います。しかし、そのきつかけとなる太陽光発電を設置することへの必要性を強く感じ、予備的に設置することが価値として見出せるか。それは体験してないと、導入には腰が重いというのが現状ではないでしょうか。個々のアクションや地域の力も同様です。最悪の事態を想定して未然に動くということは簡単ではありません。だからこそ、その価値を継続的に言い続けることが大事です。

井上：私は防災と環境は似ていると思っています。環境についても学校での学びではなく、自分で地球をよりよくしたい、未来の人へ残したいから、自分がこの行動をする！と思えない限り、環境に対するいいことができないと思います。防災についても同じで、誰かに助けてもらえばいい、という考えではなく、自分達でできることは自分たちでしたうえで、近くの人を助けるくらい、の気持ちじゃないと、いざというとき街全体が生き残ることができないと思います。



↑取材はzoomで行いました。  
左：ヒナタオエナジー 来村俊郎さん  
右：インタビュー ひの社会教育センター職員・井上恵里

来村：3・11の経験談を聞くと、多くの方が寒さと停電の中、夜にスマホのひかりが唯一の心の支えになったという話が印象的でした。私たちは小さな企業なので全てを解決することはできません。ただ、有事においてもできるだけ光を長く提供することが大事な、と感じます。これは簡単ではないものの、こういった気持ちをひと押しできるように、我々にとつてできることをこれからも意識しておきたいですね。

井上：最後に、未来を生きる子どもたちのために、大人が取り組めることは何でしょうか。

来村：一つは、環境対策に対して、エネルギーという視点からのアプローチは障壁がたくさんあります。しかし、少しでも後世に課題を解決した形でパトナタッチするのがとても大事です。それは大きな飛躍ではなく、一つ一つのステップの積み重ねだと思っていますし、みんなでそれをクリアしていくのが大事だと思っています。そのために、心のどこかにある「誰かが」「みんなが」「みんなが」を「自分も」という風に「自分ゴト」に変えてもらいたいと思います。

もう一つは、環境に対する関心を今以上に持てる仕組みを作らないといけないと思っています。資源リサイクルなどは現在当たり前になっていますが、この定着にはそれなりに時間をかけたとの認識です。そのスタートを切るのが私たちにとつては今であり、我々大人側が継続的に子供たちにも発信し、子供たちが興味をもてるよう伝えていく、こういった形で様々な環境問題に対する教育ができるような仕組みが必要だと思いますし、実現したいな、と思っています。

私たちもできることから取り組みたいと思います。ありがとうございます。

### 表紙の講師を紹介します！

『シャンソン&ピアノ』講座  
第1・第3土曜日（18時半〜20時）  
講師 吉原 恵美 先生

### プロフィール

シャンソンを始めたきっかけは、ピアノが出发点という吉原先生。



20代のときには、本場アメリカのピアノバーでも経験を積み、帰国後は某有名ホテルのサロンで弾いていました。海外からの有名なお客様もたくさんお見かけしたそうで、あのマイケルジャクソンにも会ったことがあるそうです。その後は、ライブ活動が続けたわらわらディズニールランドのオープニングイベントにも出演。現在もセンターの教室だけでなく、多くの生徒さんがいて、合同で発表会をすることで、みんなで音楽を楽しんでいます。

### 教室の様子

「詩を歌う」ようなシャンソン、恋の歌や別れ、季節、自然のことなど、時に寂しげに、時に情熱的な歌声を、目を閉じて聴いていると、情景が浮かんでくるようです。

みんな揃つての発声練習後は、それぞれの曲を一人一人マイクを使って、先生の伴奏付きで、とものびのびと歌いあげます。

自分だけのための先生の演奏、とても贅沢な時間に感じました。



みなさん、のびのびと歌います！  
気持ちよさそう！

### 先生に聞きました！

センターでの教室をスタートしてから、20年。ご自身でライブなどを行っていた時代から、教える立場になったことについて伺うと、一人一人の曲や歌い方に応じて音をつけ伴奏をすることに、監督業の面白味があると教えていただきました。「譜面どおりにならなくても、芸事は理屈じゃなく、のびのびと素直に。」という言葉が印象的でした。

### 会員さんへのメッセージ

「まずは皆さん、健康で！」  
健康じゃないと人生楽しめないからね、と話す先生。コロナ禍、長く教室を休まなければいけなかったシャンソン&ピアノのクラス。またいつ何があるかわからない時代、歌って元気に、長生きしましょう、そしていい思い出をたくさんつくりましょうね。と、話す先生に、しっかりと頷く会員さんたちでした。

北欧・デンマークから学ぶお話し会

オンライン講座 

スピーカー：ピーダーセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）



2021年5月からスタートし、3か月ごとに開催しているお話し会。

デンマーク在住の日本人で、現任教員・働くママのピーダーセン海老原さやかさんが、オンラインでお届けする生の声。たくさんの方にご参加いただき、2年目に突入します。

2年目からは会の名前を「北欧・デンマークから学ぶお話し会」とリニューアル。

幸福度が高い国と言われるデンマークの日常から、「自立する心の育て方を学ぶ」、参加者同士の対話を取り入れた参加型お話し会です。さらにパワーアップしたさやかさんと、ゲスト対談者の方、参加者の皆さんとの対話を重ね進めていきます。

学びつづけ、伝えつづける。これは生涯学習・社会教育のテーマでもあります。2022年も一緒に学びましょう！

申し込み受付中!!

日時： 第7回 テーマ「デンマーク×政治」2023年 1月29日(日) 15:00~16:30

参加費 2,200円（早割り1,650円 先着20名限り 申込は2日前まで）

学生さんは参加費500円（窓口扱いのみ） ご参加お待ちしております!!



デンマーク王国大使館後援



講師 江浦 知己



お申込みはこちら

おしり先生に  
さく

0歳からはじめる  
自然なおむつはずし講座

日にち： 11月16日(水)/2023年1月25日(水)  
※両日同じ内容です

時間： 10:00~11:30 定員6組/各日

参加費： 500円(1回分)/1名

会場： ひの社会教育センター

申込み： お申込みは、お電話(042-582-3136)

または左のQRコードから申し込みフォームに入力いただき、送信ください。<https://on.lw/uH1kPwj>

参加費は当日講座内でお支払いいただけます。



世界で活躍！スポーツ教室のリーダー  
土屋りゅうきさん



スポーツ教室の学生スタッフの、土屋りゅうきさんが8月にアイルランドで行われたラクロスの21歳以下世界選手権に日本代表として出場しました。

出場に先立ち、7月にスポーツ教室に通う子どもたち（年長～高校1年生）が集まって頑張ったのを開催しました。

普段は明るくて遊んでくれるお兄さんですが、ユニフォームを着てみると、とっても力強いお兄さんになり、子どもたちが投げるボールを見事に弾きだしていました。

世界選手権では2試合に出場。ナイスセーブを見せていました。土屋選手は今回参加したことで世界のラクロス友達をたくさんつくってきたので、ラクロスの楽しみ方の幅が広がったと話してくれました。

ひの社会教育センターのスポーツ教室は、運動が苦手でも、感情を言葉にするのが得意じゃなくても、走り始めた3歳でも、思春期真っ只中の高校生でも、5年かかってとび箱を初めて跳べた子でも、日本代表に選ばれた大学生でも、集まったらみんな誰もがスポーツを通じてつながり、笑顔になれる場所を目指しています。



↓土屋選手に果敢に挑むスポーツ教室の子どもたち!



ラクロスは、オリンピック2028ロサンゼルス大会で正式種目になるかも!とされています。土屋選手、引き続き楽しみながら出場目指してね!

はじめてみよう0歳からの性教育講座

0歳児に性教育?! 驚きですね。性教育とは…性行為の方法を教えることではないのです。お子さん自身が自分って大切なんだと感ずることができるように。小さな時から始めてみませんか?

赤ちゃんとのコミュニケーションや“からだ”のお話、おちんちんやおまの洗い方から、考え方や実際の困りごとまで同じ年齢のお子さんをお持ちの方と一緒に勉強してみませんか?



講師 藤野 早織



お申込みはこちら

日にち： 11月30日(水)・12月14日(水)全2回

時間： 10:00~11:00 定員12組  
※おひとりでの参加も可

参加費： 3,960円(2回分)/1組

会場： ひの社会教育センター

申込み： お申込みは、お電話(042-582-3136)

または左のQRコードから申し込みフォームに入力いただき、送信ください。

参加費は当日講座内でお支払いいただけます。  
<https://on.lc/UmnxQYz>



賛助会へのご協力ありがとうございます ★順不同・敬称略



- ① 個人会員 1口 1,000円  
高山峰重 3口 本間テル子 3口 樋口幸子 3口  
本田和子 3口 美藤 愛 3口 江浦史生 10口
- ② 団体会員 1口 5,000円  
いにしえ体操会 1口 割烹旅館いろは亭 1口

スマイルタウン発行：(公財)社会教育協会ひの社会教育センター 発行責任者：館長 入手喬  
〒191-0062 東京都日野市多摩平 3-1-13 電話 042-582-3136 FAX 042-581-0647